

わが

自ら創造し、いきいきと支え合い 笑顔咲きほこるまち

はじめに

北上市は、岩手県の内陸中部に位置し、東西38km、南北34kmの広さで、北は花巻市、南は奥州市と金ケ崎町、西は西和賀町と接しています。

東部には北上高地、西部には奥羽山脈が連なり、北上川と和賀川が合流する肥沃な土地に美しい田園地帯が広がり、緑豊かな自然に囲まれています。

古くから交通の要衝として栄え、東北新幹線、JR東北本線、東北縦貫自動車道、国道4号の南北幹線とJR北上線、東北横断自動車道秋田線、国道107号の東西幹線が交差し、首都圏と2時間30分、日本海とは1時間30分で結ばれるなど、北東北の十字路とし

て利便性が高まっています。

「あじさい都市」の実現に向けて

本市はまちづくりの理想として「あじさい都市」の実現を掲げ、自治基本条例に掲げる理念に基づき、市内各地区と行政が一体となつて北上市総合計画の目標達成に取り組んでいます。

「あじさい都市」とは、都市を構成する地域コミュニティごとに歩いて移動できる範囲に生活を支える都市機能を集中させながら、都市全体を支える都市拠点やほかのコミュニティと連携・共生していく都市の在り方で、平成25年7月に公表された国土交通省の都市再構築戦略検討委員会中間とりまとめにおいても、地方都市の目指す

べき都市構造の一つとして「あじさい型」が取り上げられています。

特徴としては、①地域に生活を支える都市機能が集中する核があること、②都市全体としての核(中心市街地)が明確になっていること、③都市の核と地域、地域と地域が公共交通で結ばれていること、④都市の核と地域の人、物、情報の活発な交流があること、⑤各地域の自治レベルが高いことの5つが挙げられます。

市内には16のコミュニティ単位の地域があり、平成13年からは各地区住民が自ら主体となつて自由な発想と地域の実情を踏まえた地域計画を策定し、それを総合計画にも位置付けた上で、各地区において地域づくり活動が展開されています。このような多彩な

地域づくり活動を支えるために地域の自由裁量を高めた地域づくり一括交付金制度も制定したところ
です。



みちのく三大桜名所「展勝地」の桜並木

再生可能エネルギーで地域に活気を

「あじさい都市」の実現を図る取り組みの一環として、「あじさい型スマートコミュニティ構想」



若者でにぎわう夏油高原スキー場

を推進しています。具体的には市有地に大規模太陽光発電施設である北上第1・第2ソーラー発電所を整備し、本年4月から稼働させています。そのほか、市内各地域に再生可能エネルギーを分散配置するほか、地域エネルギー管理システム(CEMS)を構築し、環境負荷の少ないエネルギーの積極活用と災害に強いまちづくりを推進していくこととしています。

希望郷いわて国体などの開催に備えて

岩手県では平成28年に希望郷いわて国体・希望郷いわて大会が開催されます。本市では開会式、陸上競技、ソフトテニス、新体操、バドミントン、閉会式が予定され、競技会場の整備も大詰めを迎えるなど、開催に向けた準備も本格化しています。

また、本年8月には日・韓・中ジュニア交流競技会、9月には第18回アジアマスターズ陸上競技選手権大会が開かれます。国内のみならず世界各国から多くの方が訪れ、本市を世界にアピールする絶

好の機会となりますので、訪れた方に本市の魅力を満喫していただくようしっかりと準備を整え、市民の皆さまとともにおもてなしの心でお迎えしたいと考えています。

むすびに

本市は東洋経済による全国住み

よさランキングにおいて、4回連続で岩手県内第1位という評価をいただきました。これからも総合計画基本構想の理念である「自ら創造し、いきいきと支え合い、笑顔咲きほこるまち」の実現に向け、市民との協働によるまちづくりを着実に進めてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 437・55km²
- ◆ 人口 9万3594人
- ◆ 世帯数 3万5659世帯

〔将来都市像〕豊かな自然と先端技術が調和した魅力あふれるまち

〔まちの特徴〕企業誘致による産業振興により、工業と農業をはじめとした産業間のバランスのとれたまち

〔特産品〕さといも、りんご、きたかみ牛、北上コロッケ、グリーンアス



北上市長
高橋敏彦



パラ、せり、山菜など

〔観光〕展勝地公園、夏油温泉、北上市立博物館、みちのく民俗村、夏油高原スキー場、国見山廃寺跡、北上市立鬼の館など

〔イベント〕北上展勝地さくらまつり、北上・みちのく芸能まつり、いわて北上マラソン大会、夏油高原紅葉まつりなど

※面積は国土地理院「全国都府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

区民とともに「ふるさと北区」の 実現を目指して

はじめに

北区は、江戸時代から飛鳥山の桜、石神井川の滝や紅葉といった四季の変化を楽しむことができる行楽地として知られており、歌川広重をはじめ多くの浮世絵師によって、その様子が生き生きと描かれていま



荒川土手の芝桜

す。現在も、これらの自然をはじめ、荒川や石神井川などの4つの河川に恵まれた緑あふれるうるおいのまちです。また、JRや地下鉄、都電が区内を走り、商

店街がにぎわう便利で活気のあるまちであり、区民一人一人が輝き、生き生きと暮らす活力のあるまちです。

人と自然、そして交通利便性の高さ、これらの恵まれた北区の資産を生かし、区民の皆さまが「ふるさと北区」を誇りに思い、住みたいまち、選ばれる自治体となることを目標に、より個性豊かで、魅力的なまちづくりやシティブロモーションを進めています。

急速に進行する少子高齢化、さらには人口減少社会の到来など、生産年齢人口の減少による「人口構成の不均衡」が生じており、コミュニティの在り方やまちの活力に大きな影響を及ぼしています。そこで、「地域のきずなづくり」と「ファミリー世帯の定住化」を北区の最重要課題と位置付け、ファミリー世

帯が住みやすい環境づくりを総合的かつ戦略的に推進し、地域コミュニティの活性化につなげていきます。併せて、「地震・水害に強い安全・安心なまちづくりに全力」で取り組みこと、「長生きするなら北区が一番」を実現すること、「子育てするなら北区が一番」をより確かなものにすることを、3つの優先課題として積極的に取り組みとともに、本格化するまちづくりへの取り組みや東京オリピック・パラリンピックを見据えた施策への取り組みを進めています。

「区民とともに」という区政運営における基本姿勢の下、これらの取り組みを着実に実行し、北区基本構想の将来像「ともにづくり未来につなぐときめきのまち—人と水とみどりの美しいふるさと北区」の実現を目指しています。

北区イメージ戦略ビジョン (Kitaku Image Strategy & Scheme)

「北区イメージ戦略ビジョン」通称「KISS」は、北区の個性や魅力を分かりやすく効果的に演出し、そのイメージを広く発信すること、そのイメージとイメージを高め、北区の知名度とイメージを高めていこうとする計画です。北区の魅力を集約して表す3つのキーワード「交通」「さくら」「ネサンス」誕生」を柱に、さまざま「KISS」作戦を展開しています。

その取り組みのひとつが北区アンバサダー事業です。北区にゆかりのある著名人・文化人に「北区アンバサダー」を委嘱し、北区のPRに協力していただき、北区の知名度・イメージ向上に大きな役割を果たしています。現在は、内田康夫氏、ドナルド・キーン氏、倍賞千恵子氏、弦哲也氏、水森かおり氏の5名に委嘱しています。「北区 内田康夫 ミステリー文学賞」というアンバサ



王子狐の行列

素敵な日常が 楽しめるまち・北区

ダーの名を冠した事業を展開するほか、講演会やコンサートなどを実施し、全国から多くの人が北区を訪れる機会をつくり出しています。

この文学賞は、平成25年度で12回目を迎え、海外からの応募も含め、これまでに寄せいただいた作品総数は2500編を超え、歴代受賞者の方々が何人もプロ作家として活躍されています。あの名探偵★浅見光彦の住む街・北区が、おかげさまで内田康夫ミステリー文学賞の街としても広く知られるようになりました。

緑豊かな自然や歴史・文化を感じる資源、にぎやかな商店街や地域に根ざした伝統行事など、北区には多彩な観光資源が数多くあります。

また、最近では、都内最

多となるJRの駅数や都内で唯一残る都電荒川線、尾久や田端の車両センターなども魅力スポットのひとつとなっており、鉄道ファンをはじめ、鉄道好きな親子連れなど多くの方が訪れています。鉄道を北区の貴重な観光資源として位置付け、各種関係団体と連携しながら、写真コンテストや鉄道ビューマチ歩きマップの作成など、「鉄道のまち北区プロジェクト」を推進しています。

こうした日常の暮らしの中に息づくさまざまな個性ある魅力、面白さをより多くの方に知っていただき、素敵な北区時間を楽しんでいただけるよう、観光ボランティアガイドをはじめ区民の皆さまとともにさまざまな観光振興事業に取り組んでいます。

トップアスリートの まち・北区

北区には、ナショナルトレーニングセンター、国立スポーツ科学センター、東京都障害者総合スポーツセンターなどのオリンピック・パラリンピック関連施設があります。

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、ほ

かの自治体にはない地域資源を最大限に生かすことは、北区をアピールする絶好の機会ととらえています。オリンピック・パラリンピック関連施設を生かし、北区版スポーツアカデミー、トップアスリート交流スポーツ教室の実施、関連施設のサイン整備、障害者週間交流スポーツイベントの開催、オリンピッ

ク・パラリンピックボランティアの育成など、「スポーツ」『おもてなし』「ユニバーサルデザイン」の視点に立った環境整備を推進しています。また、観光や産業など、スポーツ以外の分野の活性化などを目指しています。これからも、区民の皆さまとともに地域を盛り上げていきたいと思っています。

プロフィール

- ◆ 面積 20・59 km²
- ◆ 人口 33万5818人
- ◆ 世帯数 18万1348世帯

〔将来都市像〕ともにつくり未来に。なぐときめきのまちー人と水とみどりの美しいふるさと北区

〔まちの特徴〕東京都23区の北部に位置し、飛鳥山の桜や石神井川、名主の滝と紅葉、荒川の水辺空間など緑豊かな自然が魅力で、JRや地下鉄、都電が区内を走り、商店街がにぎわう、便利で活気あるまち

〔特産品〕北区おでん、清酒、生ソー



北区長
花川與惣太



ス、印刷業、精密機械機器製造

〔観光〕飛鳥山公園、旧古河庭園、旧岩淵水門、田端文士村記念館、都電荒川線、赤レンガ図書館（北区立中央図書館）、飛鳥山博物館

〔イベント〕桜ウォーク、赤羽馬鹿祭り、浮間さくら草祭り、ふるさと北区区民まつり、北・水辺ウォーク、北とぴあ音楽祭、王子狐の行列

〔歴史・文化〕王子神社例大祭（王子田楽）、稲付の餅つき唄、熊野神社の白酒祭

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「新しい時代に夢を、新しい世代に希望を託せるまち」を目指して

はじめに

守口市は、昭和21年に当時の守口町と三郷町が合併し、大阪府内で11番目の市として誕生しました。その後、昭和32年に庭窪町と合併し、現在の市の姿になりました。大阪平野のほぼ中央部に位置し、古くは農地が大部分を占め、集落が点在していましたが、大阪市に隣接する西部地域から市街地が発展し、特に高度成長期には一挙に市街地が広がりました。その時期の人口は、ピーク時に18万人（昭和45年）を超え、人口密度は、全国的に見ても1、2を争っていました。現在の人口は、14万5000人程度と減少傾向が続いていますが、人口密度は、1万1415人/km²（平成26年4月1日時点）となっており、全国的に見ても上位となっ

ています。

また、早くから大手家電メーカーの企業城下町として発展を遂げるとともに、安定した税収を背景に各種行政サービスを充実させ、公共施設や都市基盤の整備を進めてきた結果、現在では日常生活を支える基本的な施設整備は一定の到達点に達し、成熟した都市としての機能を備えるに至っています。

市内の交通機関は、大阪市中心部まで約15分の京阪電車、大阪市内営地下鉄や、大阪空港まで約35分の大阪モノレールが縦横に走り、主要道路は、国道1号・阪神高速道路・近畿自動車道などが整備され、各都市を結ぶ交通の要衝となっています。

にぎわいあふれるまちづくり

京阪電車守口市駅周辺は、百貨

店、ホテル、飲食店などの商業施設や、市民体育館、文化センターなどの公共施設が建ち並び、毎日多くの人々が行き交っています。その中心にある駅前広場は「カナディアンスクエア」と名づけられ、「守口市民まつり」をはじめ市を彩る多種多様なイベントが年間を通して開催されています。

毎年5月には、市内の伝統芸能の継承と市の活性化を目的として結成された「守口市地車連絡協議会」が主催する「守口市だんじり祭」が開催されています。市内で地車を所有する11の町会や保存会が参加しており、地域が異なる各団体が披露するパフォーマンスは個性的で幅広い層に楽しまれています。

また、7月には、守口市無形民俗文化財「寺方提灯踊り」が開催されています。河内音頭寺方節に合

わせて太鼓を使った囃子と、片手に提灯を持った独特な踊りはほかに類のない珍しいもので、本市を代表する郷土芸能です。この踊りを後世に伝えるため、地元に残存会が結成され、毎年、披露されています。

ほかにも、「ジャズと市民の力で街に賑わいを」を合い言葉に「守口宿ジャズストリート」などが開催され、年末年始には「守口市駅前イルミネーション」が設置され、「明るさ」と「賑わい」を創出しています。

これらの事業は、すべて市民、地域、事業者の皆さままで運営していただいております。市としても、さらに地域の活性化や街のにぎわいの創出などの観点から、昨年10月に駅前の道路を活用した舞台を設置しました。通常は道路休憩施設として、イベント時には舞台として使用します。オープンニングセレモニーでは、守口市駅前活性化委員会が主催する「守口発!! ダンスコンテスト」が開催され、多



昨年、駅前広場に完成した舞台上で開催されたダンスコンテストの様子

くの来場者で大盛況となりました。これからも市民の皆さんとともに、自らの住むまちを自らの手で良くしていくという思いを共有しながら、「人と人、人とまち、人と自然が響きあい、**歓び**を創り出すまち」「住んでみたい、住みつけたいまち」、すなわち**歓び響く**「**歓響都市もりぐち**」の実現に向けて、取り組んでいきます。

ユニークな伝統野菜

本市の伝統野菜である守口大根

は、長さ1m以上にもなる世界一長い大根で、太さは2〜3cm程度と細く、主に漬物として食されます。市内では、16世紀ごろから20世紀初頭まで栽培されていました。近年の宅地化などの影響で途絶えておりました。しかし、市内農家団体の協力の下、平成17年から栽培を再開し、平成19年8月には大阪府の「なにわの伝統野菜」に認証され、生産数はわずかですが、本市の特産品となるよう毎年、栽培が行われています。

市では、栽培を広め、伝統を継承するため、収穫した大根の長さを競う「守口大根長さコンクール」を開催し、広く市民の皆さんや市内小学校・幼稚園などへ参加を呼びかけています。平成25年度は、20の団体・個人が出品し、小学校の児童が栽培した大根が199・1cmで団体の部第1位に輝きました。

「もりぐち改革ビジョン」の推進

平成23年8月に徹底的な財政再建を訴え市長に就任し、同年12月に本市の財政運営を貫く大原則となる財政運営の方針をはじめ、各事務事業や公共施設の見直しなど

に関する計画「もりぐち改革ビジョン」を策定しました。

事務事業の見直しでは、民間にできることは民間に任せるとの考えの下、ゴミ収集業務や小中学校および幼稚園の校務業務など職員の配置転換を行いながら民間委託を積極的に推進しています。

また、公共施設の見直しでは、施設の必要性を見極めながら青少年センターなどの施設を廃止する一方で、本市の将来都市像「育つ・

プロフィール

- ◆ 面積 12・73 km²
- ◆ 人口 14万5307人
- ◆ 世帯数 6万9656世帯

〔将来都市像〕育つ・にぎわう・響きあう 人と心が集うまち 守口

〔まちの特徴〕大都市に隣接し交通便利性に優れた、豊かな住環境とものづくり産業が共存するまち

〔特産品〕家庭電化製品、乾電池、集



守口市長
西端勝樹



煙装置、守口大根
〔観光〕文祿堤、旧中西家住宅（もりぐち歴史館）
〔イベント〕守口市民まつり、守口市だんじり祭、寺方提灯踊り、八雲神社の宮入と練り込み提灯、守口商業まつり、守口市こどもまつり、守口宿ジャズストリート

にぎわう・響きあう 人と心が集うまち 守口」の実現に向けて、地域コミュニティ拠点施設やスポーツ防災公園の整備に取り組みとともに、教育環境の充実のため施設一体型小中一貫校を平成28年4月に開校する予定です。

今後も事業の選択と集中を図りながら、創意工夫を重ねていく戦略的な行財政改革を通じて、「新しい時代に夢を、新しい世代に希望を託せるまち」を築いていきます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

協働・融合がキーワード 輝きを増し始めた地域資源

誕生10周年を迎える

瀬戸内市

瀬戸内市は、平成16年に牛窓町、邑久町、長船町が合併し誕生しました。

岡山県の南東部に位置し、気候は温暖。西部は平野が広がり、多くの農作物が栽培されています。また、沿岸部では、カキやノリの養殖も盛んです。

また西の端を南北に流れる吉井川は、古くは中世山陽道とともに、交通、運輸の要衝として、また日本刀の産地として、備前福岡・長船をはぐくみました。

本年11月には、市制施行10周年を迎えます。3町合併による受益と負担を市民に示しながら、これまで地道な取り組みを進めてきました。今回はその中で、既存の地

域資源を活用した取り組みを紹介します。

塩田跡地に国内最大級のメガソーラー発電所を計画

錦海塩田跡地は、錦海湾の入り口に堤防を築いて作られた干拓地で、その面積は約500ha(東京ディズニーランド約10個分の広さに相当という広大な土地です。

昭和46年に塩田が廃止されてからは、一部は産業廃棄物最終処分場として使用されてきました。

塩田跡地は、地盤高が潮位を下回ることで、雨水や生活排水が流入することから、常時ポンプによる排水が必要です。平成21年に、塩田跡地を所有する企業が経営破綻し、ポンプが止まった場合の周辺住宅や農地への浸水被害が懸念されたため、平成22年12月に市がこ

の土地を買い取り、ポンプの運転を含めて管理しています。

市は、塩田跡地の適正な管理や今後の活用方針を検討するに当たって、跡地活用が市民の意向にまったく反したものでならないよう、周辺住民・漁業関係者・農業関係者や専門家を交えた検討委員会を立ち上げて協議を重ねました。その結果、「市民の安全安心」を前提とし、「地域の活性化」「環境の保全」「文化の振興」を基本理念とする「錦海塩田跡地活用基本構想」が取りまとめられ、平成24年6月に市に提出されました。

市は、この基本構想を基に、メガソーラー発電所の設置を軸にした活用を行うため、民間企業などから提案を募集しました。

提案公募の結果、公共性の高いインフラを民間の力で整備する手

法で、メガソーラー発電事業を軸として地域への波及効果が期待でき、環境や地域事情に配慮しながら市の発展につながる提案を採用し、平成25年4月に、基本計画を公表しました。

計画では、事業者の発電事業による収入は、固定買取価格40円(消費税別)、売電期間は20年間としていきます。発電所建設工事は5年程度での終了を目指し、発電事業の開始は平成30年を想定しています。土地の貸付面積は約470haで、そのうち約265haに、太陽光発電所を設置します。出力は最大230メガワットで、国内最大級の規模となります。

発電事業に加え、市民の安全安心を確保する事業として、排水ポンプの増設や堤防の補強などを事業者が行います。土地の貸付料は工事期間中が年1億円、売電事業開始後は年4億円で、安全安心の事業を含めて事業期間中に市が得る受益は約131億円を見込んでいます。

市民と協働で古民家を再生し、 黒田官兵衛ゆかりの地をPR

黒田官兵衛の曾祖父・高政と祖父・重隆は、近江から備前福岡（現在の瀬戸内市長船町福岡）に移住し、黒田家再興の基盤を整えました。

この備前福岡に残る築100年の古民家「仲崎邸」を、地域住民と協働で再生し、観光・交流拠点として公開しています。

老朽化が進んでいたこの古民家を活用するため、平成25年8月から地域の住民を中心に掃除や床板を張り替えるための下地作りを行いました。平成25年9月には、公募に応じた参加者らによる床板の張り付け作業を行いました。本年



平成24年度に開催した特別展「エヴァンゲリオンと日本刀展」

1月から公開を開始。歴史を感じさせる什物、備前福岡と黒田官兵衛のかかわりが分かるパネルなどを展示しています。

日本刀とアニメなど 現代文化との融合

日本刀を専門展示する備前長船刀剣博物館では、日本刀の良さを特に若者にPRするため、平成23年度から文化遺産である日本刀と現代文化であるアニメ・ゲームなどを融合した特別展示を夏休み期間に行っています。

平成23年度には、ゲーム、TVアニメなどで展開する『戦国BASARA A』、平成24年度には、劇場版アニメ『エヴァンゲリオン新劇場版』に注目した特別展を開催。平成25年度の『二次元VS日本刀展』では、刀匠と作家、漫画家などが連携した展示を行いました。

平成26年度には、ゲームとのコラボレーション企画として、特別展『戦国無双の刀剣展』（仮称）を開催する予定です。

おわりに

塩田跡地における国内最大級のメガソーラー発電所、市民との協

働による古民家を活用した観光拠点の創出、現代文化との融合による日本刀のPR、いずれも既存の地域資源を活用するために、民間企業、市民、関係者などと手を携えながら、時間を掛け、温めてきたものです。これからも一歩ずつ進展させ、



公募に応じた参加者らによる仲崎邸の床板の張り付け作業

プロフィール

- ◆面積 125・53km²
- ◆人口 3万8596人
- ◆世帯数 1万5045世帯

〔将来都市像〕人と自然が織りなすしあわせ実感都市（第2次総合計画）

〔まちの特徴〕温暖少雨の気候や吉井川の水の恵みなど、豊かな自然と歴史・文化資源の中で人々が快適に生活する岡山県南の都市

〔市町村合併〕平成16年11月1日、邑久郡牛窓町・邑久町・長船町が合併（新設）
〔名物・特産〕カキ、刀剣、虫明焼、備前焼、白菜、キャベツ、カボチャ、



瀬戸内市長
武久顕也



〔市の花・市の木・市の鳥〕菊・オリブ・めじろ
〔名所・旧跡〕寒風陶芸会館、竹久夢二生家、備前長船刀剣博物館、上寺山餘慶寺、本蓮寺、牛窓オリブ園、牛窓海遊文化館、瀬戸内市立美術館
〔祭り・イベントなど〕大賀島権現祭（4月）、弘法寺脚供養（5月）、喜之助フェスティバル（8月）、牛窓秋祭り（10月）、オリブ収穫祭（10月）、福岡の市（毎月第4日曜日、4月・11月は大手）

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。